

「国内原子力人材の国際化分科会」 活動報告

主査 沢井 友次

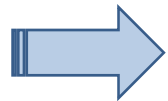
センター長
原子力人材育成センター
日本原子力研究開発機構

分科会の課題 (1/2)

原子力人材育成ネットワーク設立時(2010年)

提言5: 国際人材の養成

- ・国際機関で働く日本人職員の増加、国際会議への積極的参画
- ・国際的キャリアパス、帰国後の処遇の可視化
- ・国際的教育活動への参加支援、英語による授業等の環境整備
- ・専門技術分野に加え、国際感覚を備え、原子力固有の国際的共通課題について知見を有する人材の養成



- (1) コミュニケーション能力の向上のための事業の推進
- (2) 国際機関、国際ネットワークとの相互交流推進

東電福島事故による強化(2011年)

- (1) 福島第一原子力発電所事故からの教訓を共有し、世界の原子力施設の安全確保に貢献することは我が国の責務である。このために、**国際機関における安全基準の策定活動に積極的に参画し牽引する**ことが日本に期待される
- (2) 今回の事故後、脱原子力を表明した国がある一方で、**新規原子力発電導入計画を維持する国がほとんどであり、それらの国から日本への期待は変わらず高い**

分科会の課題 (2/2)

原子力人材育成の今後の進め方について(2014年)

＜提言(案)＞

1. 各機関は、我が国が世界最高水準の原子力安全を達成するため、世界から最新の知見を積極的に取り入れることができ、また、世界の原子力安全に貢献するため、我が国の知見を国際社会に提供することのできる**国際人材の育成を強化**すべき。

※国際人材育成の方向性として、国際的なリーダーシップを発揮でき、日本のスタンダードを国際的なスタンダードとできるような人材(コード・エンジニア)の育成が期待される。そのためには、**専門家としての十分な実力に加え、かつ国際的な人脈を築くことが必要**である

2. 各機関は、**継続的な国際研鑽を可能とする体制構築等の研修のフォローアップ**を実施すべき。

－原子力人材育成ロードマップの提案－(2014年)

(2)10年後の姿を実現するための人材育成の課題と対応方策

④ 国際貢献・国際展開＜対応策＞

- ・教育／育成カリキュラムの標準化
- ・国際連携プロジェクトを通じた計画的育成
- ・国際機関への日本人職員の積極的派遣
- ・コードエンジニアの育成
- ・資格の標準化、国際化の推進
- ・一元的管理、育成を可能とする司令塔の設立検討

戦略ロードマップ

国際貢献・国際展開の項目における『10年後のあるべき姿』

- ・複数の海外原子力建設案件が進展(建設・試運転段階)
- ・国際標準制定や国際原子力人材育成活動における日本の積極的貢献の認知・常態化
- ・国際的リーダーシップ発揮
- ・新規導入国の人材育成への貢献



国内人材の国際化分科会と関係する項目
ロードマップへの展開が必要と考えられる施策

国内人材国際化に関する各種問題点について議論

検討内容1

学生対象：大学のグローバル化

内容	役割分担	具現化に向けた活動等	活動状況
教育カリキュラムの国際標準化	学	→INMAで日本の大学での学生受入れに向けた準備	・IAEAのINMAへの協力(東大)
講義の英語化	学	→英語で実施する講義科目・ゼミを増やし、卒論等は英語で作成 →内容の希薄化に注意が必要	・大学テキストシリーズの英語化(東大) ・ テキストの英語化(国立高専機構) ・ 英語での講義・セミナー (福井大、長岡技科大、他)
留学生の受入れ推進	学	→英語環境の増大、日常化	・既に増大しつつある
リベラルアーツの履修	学	→リベラルアーツ関連科目の必修化	・グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェンツ教育院(東工大)
国際連携	学産	→良好事例についての情報発信 →単位互換の拡大	・IAEAのINMAへの協力(東大) ・(可能性として)OECD-NEAのNESTプログラム ・近畿大と韓国キョンヒ大学の連携 ・EUJEPプログラムによる派遣
産学連携	学産	→海外業務研修制度の検討 (海外事業所での研修受入れの可能性) →プログラムの充実、選択肢の拡大	・IAEAでのインターン研修

検討内容2

実務者対象：英語環境の充実と計画的ポスト獲得

内容	役割分担	具現化に向けた活動等	活動状況
英語環境の増大	産	→国際的なイベントの誘致の検討 (WNU-SI、IYNC2020等) →若手のイベントへの参加奨励	・海外からのインターンシップ受入れ ・海外現地法人、グループ会社との人材交流プログラム・グローバル採用
教育の国際連携	産学	→既存のプログラムの効果的な実施 →単位互換の拡大 →良好事例の情報発信	・Japan-IAEA NEMスクール ・IAEAのINMAへの協力(東大) ・OECD-NEA のNESTプログラム ・岡山大学/ユタ大学のプログラム
国際化研修プログラムの充実	産	→既存のプログラムの効果的な実施 →ニーズに合わせプログラムの検討 →産業界大の研修 (原子力分野外でのノウハウ取入れ)	・原子力グローバル人材育成セミナー (若狭エネ研) ・原子力国際人材養成コース(JAEA) ・WNU-SI、IYNCなどへの参加支援(JAIF)
国際キャリア／人脈形成／	産官	→留学制度の強化 →国際機関への就活推進 →国際プロジェクト等への派遣	・社費留学制度 ・国際原子力機関(IAEA)による就職面接に関する紹介のお知らせ(ウィーン代表部) ・国際機関応募の勧め(ネットワークHP)
発言力獲得	産官	→計画的な国際化の推進 国際機関においてリーダーシップをとることのできるポストを多数獲得 →外務省等と連携	・外務省ウィーン代表部の取組み
コードエンジニア育成	産官	→国際会議／国際学会等への計画的派遣	

検討内容3

議論の内容

●国内人材国際化における3つの研修形態の意義と想定する到達目標の明確化

- 自助努力
- 社内研修(OJT)
- 会社の枠を超えたネットワークによる支援

→英語力等は自助努力が基本

→他の能力に比べて、社内研修(OJT)の果たす役割は小さい

→国際化は会社横断的な取り組みが行いやすい能力分野

→エキスパートになるちょっと前の段階の支援が有効

●学生の国際遍歴について

追加研修プログラムが、アラカルト的、スポット的なものになりがちで大事な体系学習の妨げになる可能性は？

→そればかりでは困るが、概して若い内の経験は、効果が大い

→大学でも、海外での研修参加を単位化するなど、奨励